令和３年　神奈川県議会　厚生常任委員会

令和３年６月29日

谷口委員

私からは、今日何点かお伺いしたいと思いますが、福祉施設等従事者向けの接種会場設置と、県内のワクチンの供給状況について伺っていきます。

まず、報告資料にもあります福祉施設等従事者向けの接種会場の設置について、何点か確認をさせていただきます。

この資料の中、２段落目のところに、神奈川県が大規模接種会場を設置することで、とあるのですが、大規模接種会場と聞くと、今、大手町でやっているような規模、また、横浜市も、当初は発表によると１日当たり接種会場の回数は3,000回以上ということで、そういうイメージがあるのですが、そういう意味では、この表において少し違和感があるのかなという感じがしていますが、その点について、少し見解をお伺いします。

健康医療局長

大規模接種会場とここには記載してありますが、正確に申し上げると、大規模接種の仕組みを使った福祉施設等従事者への接種会場ということでして、この資料上の表現は、少し実態とは、回数等も５万人弱を６月末までということで割り返すとそんなに規模としても大きいということではありませんので、若干ここは誤解を生みやすいかなということで、今後気をつけたいと思います。

谷口委員

いずれ正式に発表される際には、ここは表現は工夫していただきたいと思います。

それで、先ほどの先行会派の方の質疑でもあったのですが、モデルナ社のワクチンを使うということで、確認ですが、今回ここで使用しようとしているモデルナワクチンは、職域向けの枠ではなくて、自治体向けの枠ということでよろしいですか。

医療危機対策本部室室長代理

今委員おっしゃられたように、これは自治体向けの大規模接種の枠ということで今行っております。

谷口委員

一定程度、職域接種のほうは申請受付が止まっていて、もう御存じだと思いますが、実は昼間のニュースで、政府高官の話として、この職域接種について中断している申請の受付を再開しないと明らかにしたと、使用しているモデルナ製ワクチンの不足が理由だということが時事で出ていて、フジテレビとあと何社か、やはり政府高官という名前で、再開はしない方針、あと、モデルナからファイザーに切り替えていくという報道もあります。これは、恐らく複数社が報道しているということは、オフレコかなんかでそれなりの政府の幹部の発言として報道されているので、基本的には間違いないだろうと思います。職域接種のほうなので、先ほど確認しましたが、自治体向けの枠とは違うとはいえ、このモデルナ社ワクチンの供給が、本当に受けられるのかどうか、若干心配なところがあります。もっと心配なことは、今日の報告資料だと検討していると

いう書き方になっているのですが、正式に発表した後に、手に入れられませんでしたということになればえらいことになるので、今と同じような確度の質問になるかもしれませんが、どの程度本当に来ると確約を取っているのか、そこを再度お伺いできますか。
医療危機対策本部室室長代理
　先行会派の中でも質問あったところですが、国に対しては、県として大規模接種の手法で接種会場を設置するという意向は示して、現在調整を図っているというところの行いになっております。
谷口委員
　だとすると、かなり不確定要素が多いので、これは要望ですが、接種しますと正式発表する際には、その辺のところも少し加味した表現にしてもらったほうがいいのかなと私は思っています。というのは、地元でも特に介護事業者の方々は、いわゆる入所のところの従事者の方は優先接種の対象になるが、デイサービス、通所、訪問といったところは対象にならないということで相当声を頂いていて、一部の基礎自治体ではそこも含めて優先接種しましょうとなっている地域もありますが、いずれにしてもここの要望は物すごく強いと思うので、そうした期待を裏切らない形にぜひしてもらいたいと思いますが、何か見解があれば。
ワクチン接種担当課長
　今のお話は、我々としても何とか実現できるように調整はしていきたいと考えておりますので、今後こうしたことがあった場合に対しては、少し慎重にお知らせすることも考慮したいと考えております。
谷口委員
　あわせて、ぜひ国のほうと、もう少しここの確約の精度を上げられるように、しっかりとお願いします。
　もう一点は、ワクチンの供給の話ですが、先日、県の発表で来月の５日と 12 日の週に発送する今度第９クールの発表がありましたが、箱数を見てみますと、第８クールに比べて約半分とは言わないのですが、４割方減っている。第８クールが 1,034 箱、県全体で各市町村に配布した合計が 1,034 箱で、今回の第９クール、７月の頭から半ばにかけて発送するのが 663 箱となっています。半分近く減っているのですが、これの理由は何か教えていただけますか。
ワクチン接種担当課長
　第１クールから第８クールまでで６月末までにこのワクチンの配送をしていたわけですので、この回については、高齢者の人口分のワクチンを供給しなければいけないということで、国から集中的に最後、６、７、８という形で集中的に配られたので、そういった意味で第６、第７、第８クールというのは、これまで配布されていたワクチン量に対してかなり大幅にワクチンが供給されていたということがあります。一方、第９クール以降、65 歳以下の方たちを対象にしたワクチンが供給されるのですが、なぜこれが少なくなるのかという正確な理由が、国から情報提供を受けていないので、少し想像の部分もありますが、供給見通しがまだ８月以降示されていないのです。もともと７月末までにワクチンを高齢者に打とうということで、急いでワクチンを供給していたというこ

とがあるので、多分ここは少し通常の配送よりも上乗せして配送していたのではないかと思います。ですので、逆に言うと、この７月のワクチンの供給自体が、もともとの通常の配送のベースなのかなということも想像できますが、詳細については申し訳ありませんが国から情報提供がないので、想像の域を出ない、そのような状況です。

谷口委員

ただ、私たちの耳に入ってくる声は、実際の自治体の方々はどんどん打てということで、現役世代の方、64 歳以下の方々やいろいろなことを考えていたのだが、急にパタンと減ってしまったので、どうしようかと戸惑っているという声が入ってきます。

これも確認ですが、今回、第９クールはそういう意味で、市町村が希望した量と実際発送する量と、どのくらい差があるか確認させてください。

ワクチン接種担当課長

市町村からの希望数量自体は、まとめますと 990 箱でありました。そのほかに供給数としては、実際供給されたのは先ほどお話のあった 663 箱ということなので、300 箱近く減少したという状況になっています。

谷口委員

ちなみに、第 10 クールのイメージもお持ちですか。

ワクチン接種担当課長

国から供給に関して基本枠が示されていて、この基本枠が 557 箱になっています。これは 64 歳以下の方の人口で全国を配分した数量になっているのですが、それに各市町村が希望する希望数量を加味して供給されるということになっております。

谷口委員

そうすると、第 10 クールも大体 600 箱前後ということになると、第９クールと同じくらいのイメージになってきますね。その先はどうでしょう。

ワクチン接種担当課長

その先、８月以降の供給見通しが、今のところまだ国から示されていないので、今、目下国に要望しているという状況です。

谷口委員

何とか早く見通しを市町村の方々へお伝えしてあげないと、本当に準備が、人も会場もそろえたが、ワクチンが来ませんという状況になりかねないので、これはぜひよろしくお願いします。

それで、実は河野大臣が今日の記者会見で、自治体、職場への配送完了時期について、10 月中には所定の場所に配送されるとの見通しを示したとあるのですが、ここは一定の安心できることですが、一方で、全国知事会からも 19 日の緊急提言で、ファイザーのワクチンが７月以降急減すると指摘をされていますので、そのことに関して減るのは事実だが急減ではない、併せてＶＲＳワクチン接種記録システムの入力実績に基づけば、全国平均で約 40 日分の在庫が自治体に積み上がっていると記者会見で述べているのですが、恐らくＶＲＳに入力をする自治体によっても、入力をするまで一定程度何日、１週間とたってしまったというタイムラグがあったりするものの、一定程度在庫がある可能性も残

っていると思うのです。それは県として全体の市町村の在庫の積み上がり、実際は市町村へ行っているがまだ打てていないという、その数というのは把握されていますか。
ワクチン接種担当課長
　国から情報提供を受けておりますので、供給数量は供給数量として分かりますし、ＶＲＳと言われるシステムでも接種回数も把握しているので、この差引きをすれば、在庫数量と相当される部分は算出はできるということで、県のほうでも情報は持っております。
谷口委員
　自治体に行っているが、ＶＲＳに入力された数との回数の差は大体どれぐらいあるのか教えていただけますか。
ワクチン接種担当課長
　少し細かい数字になってしまうので、ざっくりと申し上げますと、大体単位が箱ではなくて回で換算していますので、460 万回、ワクチンの配分があって、それに対して高齢者の接種の回数の実績で考えますと 150 万回あり、想定の在庫量ということで行きますと 300 万回ぐらいあるということになります。ただ、一応市町村とやり取りをしている中では、結局今、瞬間の接種回数と、それから配分した量との差引きになります。確かに先ほど委員からお話しのあったように、実際多少は接種回数の入力が少し遅れている部分としての誤差があるものと考えられますし、その部分についてはなかなか詳細まで我々は全て把握しているわけではないということがありますのと、もう一つ、今日打ちましたといったら、３週間後にはもうワクチンを打たなければいけないわけで、ある程度３週間後打たなければいけないというワクチンの量もある程度押さえておかなければいけないということがあるので、単純差引きが在庫としてしまうと、市町村の現場としては困るという部分はあろうかと思いますので、今私が申し上げたこの数字自体については、単純な接種回数と配分量の差ですので、その辺りの在庫量というのは、いろいろと市町村とも情報共有しながら、どのように管理するのが適切なのかということは検討しなければいけないのかなと思っております。
谷口委員
　私もこの 40 日分の在庫が積み上がっていることを問題視しているわけではなくて、進まないところは県としても支援チームをつくって医師や看護師のほうのマッチングもやっていただいているので、いずれにしても少し細かく見ていただいて、国のワクチンの供給状況の見通しなども含めて、市町村に寄り添ってしっかりとやっていただくことをお願いして、私の質問を終わります。